

注3

大学番号：私241

[平成29年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

届出

岡山理科大学 経営学部 経営学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 加計学園
平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 企画室 IR・企画課

職名・氏名 シュニン 主任 カトウ 加藤 カスヒロ 和裕

電話番号 086-256-8414

（夜間） 086-256-8414

F A X 086-256-8470

e-mail kikaku@office.ous.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

経営学部

<経営学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	19
6. 留意事項等に対する履行状況等	35
7. その他全般的事項	36

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人加計学園

(2) 大学名

岡山理科大学

(3) 大学の位置

〒700-0005

岡山県岡山市北区理大町1番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(カケ コウタロウ) 加計 晃太郎 (平成13年1月)		
学長	(ヤナギサワ ヤスノブ) 柳澤 康信 (平成28年4月)		
学部長	(ヤマグチ タカヒサ) 山口 隆久 (平成29年4月)		
学科長等	(クロダ マサヒロ) 黒田 正博 (平成29年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
経営学部 経営学科 学士(経営学)	経済学関係	4年	130人	- 年次人	520人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	130 (-) [-]								1.10倍	
志願者数	506 (-) [11]	- (-) [-]								
受験者数	482 (-) [11]	- (-) [-]								
合格者数	238 (-) [4]	- (-) [-]								
B 入学者数	144 (-) [4]	- (-) [-]								
入学定員超過率 B/A	1.10									

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで**記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	144 [4] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次	/		/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	
4年次	/		/		/		[] ()	[] ()	
計	144 [4] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成29年度 入学者	144 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人	該当なし	0 %
			平成30年度	－ 人	－ 人		
			平成31年度	－ 人	－ 人		
			平成32年度	－ 人	－ 人		
平成30年度 入学者	－ 人	－ 人	平成30年度	－ 人	－ 人		－ %
			平成31年度	－ 人	－ 人		
			平成32年度	－ 人	－ 人		
平成31年度 入学者	－ 人	－ 人	平成31年度	－ 人	－ 人		－ %
			平成32年度	－ 人	－ 人		
平成32年度 入学者	－ 人	－ 人	平成32年度	－ 人	－ 人		－ %
合 計	144 人	0 人					0 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<経営学部 経営学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	基礎Ⅰ類	経営学基礎	1-①	2		1						
		商学基礎	1-②	2			1					
		経済学基礎	1-①	2				1				
		簿記基礎	1-②	2		1						
	基礎Ⅱ類	情報科学基礎	1-①	2			1					
		データ解析基礎	1-②	2		1						
	基礎Ⅲ類	社会学基礎	1-①	2		1						
		法学基礎	1-②	2			1					
		歴史学基礎	1-①	2		1						
		心理学基礎	1-②	2			1					
	マーケティングと戦略	マーケティング論	1-③	2			1					
		マーケティング戦略	2-①	2		1						
		サービスマーケティング	2-②	2				1				
		サービス経営学	2-③	2		1						
		サービス社会システム	2-④	2		1						
		商品開発論	2-①	2		1						
		消費者行動	2-②	2			1					
		マーケティング・コミュニケーション	2-③	2								兼1
		小売マーケティング	1-④	2					1			
		国際マーケティング	3-①	2					1			
		マーケティング・リサーチ	3-①	2								兼1
		まちづくりと商業	2-②	2		1						
		観光ビジネス	3-①	2		1						
		企業論	1-③	2		1						
		ベンチャービジネス論	1-④	2		1						
		経営戦略	2-①	2		1						
		経営組織	2-④	2		1						
		人的資源管理	3-②	2		1						
		ファイナンシャルプランニング	2-③	2		1						
		ファイナンス戦略	2-④	2		1						
		金融サービス	3-①	2		1						
		簿記原理	2-②	2		1						
		財務諸表論	3-②	2		1						
ミクロ経済学	1-④	2				1						
マクロ経済学	2-②	2				1						
アジアの産業と市場	2-①	2								兼1		
国際経済論	2-③	2								兼1		
リスクマネジメント	3-④	2								兼1		
データサイエンスと情報活用	情報リテラシー	1-①～②	2			1					兼1	
	社会調査入門	1-③	2		1							
	社会調査法	1-④	2				1					
	データ解析システム	2-①～②	2				1					
	行動計量学	2-④	2		1							
	データサイエンス演習	3-①～②	2		1							
	経営情報	2-②	2				1					
	経営科学	2-④	2		1							
	経営システム	3-②	2					1				
	プログラミング基礎	2-①～②	2		1							
応用プログラミング	2-③	2		1								

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手			
専門教育科目	社会と制度 制度と文化	コミュニケーション論	1-③	2								兼1	
		現代のメディア	2-④	2		1							
		ジャーナリズム論	3-②	2		1							
		社会心理学	2-①	2			1						
		市民生活と法	1-③	2									兼1
		国際社会と法	2-④	2				1					
		社会福祉と法	3-①	2				1					
		公共政策	1-④	2				1					
		経済政策	2-①	2				1					
		国際政治学	2-③	2				1					
	環境政策	3-②	2									兼1	
	歴史と文化	地域と伝統	1-③	2			1						
		日本の歴史	1-④	2		1							兼1
		中国の歴史	2-①	2		1							
		東南アジアの歴史	2-②	2		1							
		歴史資料解析	2-③	2		1							
		世界地誌	1-③	2									兼1
		地理学	1-④	2									兼1
		民俗学	2-③	2									兼1
		アジアの考古学	2-④	2		1							
		比較文化論	3-②	2		1							
	現代論理学	2-③	2				1						
	現代哲学	3-①	2				1						
	実践型ビジネス・プログラム	ビジネス英会話Ⅰ	2-①～②	2									兼1
		ビジネス英会話Ⅱ	2-③～④	2									兼1
		情報活用とビジネスライティングⅠ	3-①～②	2				1					
		情報活用とビジネスライティングⅡ	3-③～④	2			1						
		実践キャリア学Ⅰ	1-③～④	2									兼1
		実践キャリア学Ⅱ	2-③～④	2									兼1
	演習	基礎教養ゼミナール	1-①～②	2			10	7	1				
		プロジェクト研究	2-③～④	2			4	3	1				
		イノベーション・ラボⅠ	3-①～②	4			7	4					
		イノベーション・ラボⅡ	3-③～④	4			7	4					
卒業研究Ⅰ		4-①～②	2			11	7	1					
卒業研究Ⅱ		4-③～④	2			11	7	1					
外国語教育科目	総合英語Ⅰ	1-①～②	1									兼8 兼7	教育効果に配慮し担当教員を追加(29)
	総合英語Ⅱ	1-③～④	1									兼8 兼7	教育効果に配慮し担当教員を追加(29)
	総合英語Ⅲ	2-①～②	1									兼6	
	総合英語Ⅳ	2-③～④	1									兼6	
	発信英語Ⅰ	1-①～②	1									兼5 兼4	教育効果に配慮し担当教員を追加(29)
	発信英語Ⅱ	1-③～④	1									兼5 兼4	教育効果に配慮し担当教員を追加(29)
	発信英語Ⅲ	2-①～②		1								兼4	
	発信英語Ⅳ	2-③～④		1								兼4	
	専門英語Ⅰ	3-①～②		1								兼1	
	専門英語Ⅱ	3-③～④		1								兼1	
	応用英語Ⅰ	3-①～②		1								兼3	
	応用英語Ⅱ	3-③～④		1								兼3	
	実用英語(TOEIC対応クラス600)	1-①～②		1								兼1	
	実用英語(アカデミックライティング)	1-①～②		1								兼2	
	実用英語(プレゼンテーション)	1-①～②		1								兼1 兼2	クラス編成の調整により担当教員を削除(29)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
外国語教育科目	ドイツ語Ⅰ	1-①~②		1								兼2	
	ドイツ語Ⅱ	1-③~④		1								兼2	
	フランス語Ⅰ	1-①~②		1								兼2	
	フランス語Ⅱ	1-③~④		1								兼2	
	中国語Ⅰ	1-①~②		1								兼5 兼3 教育効果に配慮し担当教員を追加(29)	
	中国語Ⅱ	1-③~④		1								兼5 兼3 教育効果に配慮し担当教員を追加(29)	
	ハンブルⅠ	1-①~②		1								兼3	
	ハンブルⅡ	1-③~④		1								兼3	
	海外語学研修A	1・2・3・4-①~④		1								兼4	
	海外語学研修B	1・2・3・4-①~④		2								兼4	
	海外語学研修C	1・2・3・4-①~④		2								兼4	
	海外語学研修D	1・2・3・4-①~④		3								兼4	
	日本語	1-①~②		4								兼1	
	日本語会話	1-①~②		4								兼2	
	日本語理解	1-③~④		2								兼1	
	日本語表現	1-③~④		2								兼1	
	基礎日本語	1-①~②		2								兼1	
TOEICセミナーⅠ	1・2・3・4-①~②		2								兼1		
TOEICセミナーⅡ	1・2・3・4-①~②		2								兼1		
初年次教育科目	フレッシュマンセミナー	1-①	1			1						兼1 フレッシュマンセミナー担当教員の変更(29)	
教養教育科目	人間・社会科学教育科目	心理学A	1-①・③		1							兼2 兼1 教員の定年退職による担当教員の変更(29)	
		心理学B	1-②・④		1							兼2 兼1 教員の定年退職による担当教員の変更(29)	
		哲学A	1-①・③		1								兼1
		哲学B	1-②・④		1								兼1
		論理学A	1-①・③		1								兼1
		論理学B	1-②・④		1								兼1
		倫理と宗教A	1-①・③		1								兼1
		倫理と宗教B	1-②・④		1								兼1
		文学A	1-①・③		1								兼3 兼2 教員の体調不良により担当教員の変更及び担当教員を追加(29)
		文学B	1-②・④		1								兼3 兼2 教員の体調不良により担当教員の変更及び担当教員を追加(29)
		日本史A	1-①・③		1								兼1
		日本史B	1-②・④		1								兼1
		外国史A	1-①・③		1								兼1 教育効果に配慮し開講期を追加(29)
		外国史B	1-②・④		1								兼1 教育効果に配慮し開講期を追加(29)
		マスメディア論A	1-①・③		1		1						兼1 クラス編成の調整により担当教員を削除(29)
		マスメディア論B	1-②・④		1		1						兼1 クラス編成の調整により担当教員を削除(29)
		政治学A	1-①・③		1								兼1
		政治学B	1-②・④		1								兼1
		国際関係論A	1-①・③		1								兼1
		国際関係論B	1-②・④		1								兼1
		国際バカロレア概論	2-①~②		2								兼1
		海外文化研修	1-①~②・③~④		2								兼1
		経済学A	1-①・③		1								兼2
		経済学B	1-②・④		1								兼2
		環境と社会A	1-①・③		1								兼2 兼1 教育効果に配慮し担当教員を追加(29)
		環境と社会B	1-②・④		1								兼2 兼1 教育効果に配慮し担当教員を追加(29)
		日本国憲法	1-①~②・③~④		2								兼4
法学A	1-①・③		1								兼3		
法学B	1-②・④		1								兼3		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
人間・社会科学教育科目 教養教育科目	考古学A	1-①・③		1							兼1		
	考古学B	1-②・④		1							兼1		
	比較文化論A	1-①・③		1							兼2	教員の体調不良により担当教員を変更(29)	
	比較文化論B	1-②・④		1							兼2	教員の体調不良により担当教員を変更(29)	
	社会と人間A	1-①・③		1							兼3		
	社会と人間B	1-②・④		1							兼3		
	福祉環境論A	1-①・③		1							兼2	クラス編成の調整により担当教員を変更(29)	
	福祉環境論B	1-②・④		1							兼2	クラス編成の調整により担当教員を変更(29)	
	岡山学A	1-③		1		1							
	岡山学B	1-④		1		1							
	健康の科学	1-①～②・③～④		2							兼4		
	生涯スポーツ	1-①～②・③～④		1							兼4		
	スポーツとフィールド科学(エコリズムのための野外スポーツ)	1-①～②		2							兼4 兼3	教育効果に配慮し担当教員を追加(29)	
	スポーツとフィールド科学(ヨット)	1-①～②		1							兼3		
	スポーツとフィールド科学(ゴルフ)	1-①～②・③～④		1							兼2		
	スポーツとフィールド科学(テニス)	1-③～④		1							兼1		
	スポーツとフィールド科学(ボウリング)	1-①～②・③～④		1							兼1		
	スポーツとフィールド科学(スキー)	1-③～④		1							兼6 兼5	教育効果に配慮し担当教員を追加(29)	
	ボランティア論A	1-①・③		1							兼3		
	ボランティア論B	1-②・④		1							兼3		
	ボランティア活動A	1-①～②・③～④		1		1							
	ボランティア活動B	1-①～②・③～④		1		1							
	日本の文化と歴史I A	1-①		1							兼1		
	日本の文化と歴史I B	1-②		1							兼1		
	日本の文化と歴史II A	1-③		1		1					兼1	教育効果に配慮し担当教員を変更(29)	
	日本の文化と歴史II B	1-④		1		1					兼1	教育効果に配慮し担当教員を変更(29)	
	キャリア教育科目	文章表現法基礎編A	1-①・③		1							兼10 兼9	教育効果に配慮し担当教員を追加(29)
		文章表現法基礎編B	1-②・④		1							兼10 兼9	教育効果に配慮し担当教員を追加(29)
		プレゼンテーション基礎編A	1-①・③		1							兼3	
プレゼンテーション基礎編B		1-②・④		1							兼3		
教養演習A		1-①・③		1							兼1 兼2	クラス編成の調整により担当教員を削除(29)	
教養演習B		1-②・④		1							兼1 兼2	クラス編成の調整により担当教員を削除(29)	
企業と人間A		1-①・③		1							兼2		
企業と人間B		1-②・④		1							兼2		
キャリア形成講座A		1-①・③		1							兼3 兼2	教育効果に配慮し担当教員を追加(29)	
キャリア形成講座B		1-②・④		1							兼3 兼2	教育効果に配慮し担当教員を追加(29)	
学びの基礎論A		1-①		1							兼2		
学びの基礎論B		1-②		1							兼2		
地域フィールドスタディA		2-①		1							兼3		
地域フィールドスタディB		2-②		1							兼3		
企業情報特論A		2-①		1							兼1		
企業情報特論B		2-②		1							兼1		
インターンシップ概論		2-①・②・③・④		1							兼1		
インターンシップA		2-①～②・③～④		1							兼1		
インターンシップB		2-①～②・③～④		2							兼1		
インターンシップC		2-①～②・③～④		3							兼1		
文章表現法応用編A	2-①		1							兼1			
文章表現法応用編B	2-②		1							兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置					備 考			
			必修	選択	自由		教授	准教授	講師	助教	助手				
キャリア教育科目	プレゼンテーション応用編 A	2-①		1								兼1			
	プレゼンテーション応用編 B	2-②		1								兼1			
	教職のための文章表現法	3-③~④		2								兼1			
	教職のためのプレゼンテーション	3-③~④		2								兼1			
	技術者の社会人基礎 A	1-①		1								兼2 兼1	教育効果に配慮し担当教員を追加(29)		
	技術者の社会人基礎 B	1-②		1								兼2 兼1	教育効果に配慮し担当教員を追加(29)		
	経営工学 A	2-①		1								兼1			
	経営工学 B	2-②		1								兼1			
	技術マネジメント A	3-①		1								兼1			
	技術マネジメント B	3-②		1								兼1			
	教養教育科目	科学技術教育科目	身近な物理学 I	1-①・③		1								兼1	
			身近な物理学 II	1-②・④		1								兼1	
			身近な化学 I	1-①・③		1								兼3	
			身近な化学 II	1-②・④		1								兼3	
			身近な生物学 I	1-①・③		1								兼2	
			身近な生物学 II	1-②・④		1								兼2	
			身近な地学 I	1-①・③		1								兼1	
			身近な地学 II	1-②・④		1								兼1	
			科学技術倫理 A	2-①		1								兼1	
			科学技術倫理 B	2-②		1								兼1	
現代人の科学 A		1-③		1								兼1			
現代人の科学 B		1-③		1								兼3			
現代人の科学 C		1-③		1								兼3			
現代人の科学 D		1-④		1								兼3 兼2	教育効果に配慮し担当教員を追加(29)		
現代人の科学 E		1-④		1								兼2			
現代人の科学 F		1-④		1								兼5 兼9	クラス編成の調整により担当教員を削除(29)		
科学技術と人間 A		1-①・③		1								兼2			
科学技術と人間 B		1-②・④		1								兼2			
科学・工作ボランティア入門		1-①~②		2								兼11 兼9	教育効果に配慮し担当教員を追加(29)		
科学ボランティア実践指導 I		1-③		1								兼12 兼14	教育効果に配慮し担当教員を追加(29)		
科学ボランティア実践指導 II	2-①~②		1								兼9				
科学ボランティア活動	2-③~④		1								兼15				
ワインの歴史と風土・文化	1-②		1								兼1	全学のプロジェクト科目を追加(29)			
ワインの科学	1-③		1								兼1	全学のプロジェクト科目を追加(29)			
生命の化学概論	2-①		1								兼1	全学のプロジェクト科目を追加(29)			
プロジェクト科目	I B 教員養成プロジェクト科目	I B 教育課程論	2-③~④		1							兼1	全学のプロジェクト科目を追加(29)		
		I B 教育方法論	2-③~④		1							兼1	全学のプロジェクト科目を追加(29)		
		I B 教育評価論	3-①~②		2							兼1	全学のプロジェクト科目を追加(29)		
		D P 教育実践研究 I	4-①~②		2							兼1	全学のプロジェクト科目を追加(29)		
	ワインプロジェクト科目	ブドウ栽培学	1-④		1								兼2	全学のプロジェクト科目を追加(29)	
		生命の基礎化学	1-④		1								兼2	全学のプロジェクト科目を追加(29)	
		発酵と微生物	2-②		1								兼1	全学のプロジェクト科目を追加(29)	
		ワイン醸造法	2-③		1								兼1	全学のプロジェクト科目を追加(29)	
		ワインプロジェクト実習 I	1-③~④		1								兼6	全学のプロジェクト科目を追加(29)	
		ワインプロジェクト実習 II	2-①・②・③・④		1								兼6	全学のプロジェクト科目を追加(29)	
ワインプロジェクト実習 II	3-①・②・③・④		1								兼4	全学のプロジェクト科目を追加(29)			

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目 14	科目 214	科目 0	科目 228	科目 14	科目 228	科目 0	科目 242	
				[0]	[14]	[0]	[14]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当科目なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当科目なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当事項なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{228} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位までを記入してください。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考					
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	借用期間及び面積 1年 60㎡ 3年 224㎡ 30年 14,731㎡ 60年 15,974㎡					
	校舎敷地	115,033㎡ 115,106㎡	0㎡	0㎡	115,033㎡ 115,106㎡						
	運動場用地	138,961㎡	0㎡	0㎡	138,961㎡						
	小 計	253,994㎡ 254,067㎡	0㎡	0㎡	253,994㎡ 254,067㎡						
	そ の 他	533,239㎡ 532,879㎡	0㎡	0㎡	533,239㎡ 532,879㎡						
	合 計	787,233㎡ 786,946㎡	0㎡	0㎡	787,233㎡ 786,946㎡						
【校舎敷地】校地内の岡山市の土地を購入17㎡, 歩道整備のため60㎡借用、これにより77㎡増加、しかし新設のA1号館内に附属施設(工作センター)があり、149.70㎡※を校舎面積より除外(29)											
※(設置認可時に附属施設として記載していた工作センターは334.16㎡であったが、取り壊し、H28年度に竣工したA1号館内に483.86㎡で設置した。その差149.70㎡を校舎面積から除外する。											
【その他面積】研修施設敷地として209.36㎡を購入したことによるその他面積の変更(29)											
(2) 校 舎	専 用	101,278㎡	0㎡	0㎡	101,278㎡	大学全体					
	(111,800㎡)	(0㎡)	(0㎡)	(111,800㎡)							
(3) 教 室 等	講 義 室	78室	演 習 室	131室	実験実習室	386室	情報処理学習施設	8室	語学学習施設	10室	大学全体 完成年次
							(補助職員3人)	(補助職員0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数			届出学部全体				
	経営学部 経営学科			19 室							
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	初年度の図書及び視聴覚資料冊数集計錯誤による変更(29)			
	経営学部	12,557 [2,525] (11,957 [2,525]) (12,557 [2,525])	158 [143] (158 [143])	29 [14] (29 [14])	188 168 (159) (168)	1249 (1,249)	0 (0)	大学全体の共用分			
		図書384,400冊[89,500冊]									
		学術雑誌4,154種[3,331種]									
計	12,557 [2,525] (11,957 [2,525]) (12,557 [2,525])	158 [143] (158 [143])	29 [14] (29 [14])	188 168 (159) (168)	1249 (1,249)	0 (0)	電子ジャーナル3,192種[3,134種]				
視聴覚資料4,460点											
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数			収 納 可 能 冊 数			大学全体完成年次			
	3,591.25㎡	702 689			439,750 433,525			書架・閲覧席増設による教育環境充実のため(29)			
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要									
	3,716㎡	トレーニングルーム2室			フィットネスルーム1室			大学全体			
		野球場1面			テニスコート5面						
		アーチェリー場1カ所			弓道場1カ所						
幅跳・三段跳場1面											

(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	○図書購入費には電子書籍9,091千円、視聴覚資料1,149千円含む。第2年次以降は学術雑誌の継続分を計上。○設備購入費：開設前年度に消耗品含む。開設後は設備の保守料を計上。
		教員1人当り研究費等	600千円	600千円	図書購入費	14,234千円	10,624千円	1,934千円	
		共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	9,265千円	800千円	800千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,200千円	1,140千円	1,140千円	1,140千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、手数料 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	岡山理科大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入定員	編入学員	収定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
≪ A C対象学部等 ≫									
教育学部									
初等教育学科	4	70	—	140	学士 (教育学)	1.10	平成28年度	岡山県岡山市北区理大町1番1号	
中等教育学科	4	60	—	120	学士 (教育学)	1.00	平成28年度	同上	
経営学部									
経営学科	4	130	—	130	学士 (経営学)	1.10	平成29年度	同上	
理学部									
応用数学科	4	110	—	395	学士 (理学)	1.11	昭和39年度	岡山県岡山市北区理大町1番1号	平成29年入学定員増(15人)
化学科	4	75	—	285	学士 (理学)	1.05	昭和39年度	同上	平成29年入学定員増(5人)
応用物理学科	4	75	—	285	学士 (理学)	0.92	昭和41年度	同上	
物理科学専攻	4	45	—	155	学士 (理学)	1.20	平成14年度	同上	平成27年入学定員増(10人) 平成29年入学定員増(5人)
臨床工学専攻	4	30	—	130	学士 (理学)	0.62	平成14年度	同上	平成27年入学定員減(10人)
基礎理学科	4	90	—	315	学士 (理学)	1.08	昭和50年度	同上	平成29年入学定員増(15人)
生物化学科	4	95	—	350	学士 (理学)	1.11	昭和63年度	同上	平成29年入学定員増(10人)
臨床生命科学科	4	95	—	350	学士 (理学)	1.08	平成16年度	同上	平成29年入学定員増(10人)
動物学科	4	45	—	165	学士 (理学)	1.11	平成20年度	同上	平成29年入学定員増(5人)
工学部									
バイオ・応用化学科	4	85	—	310	学士 (工学)	1.05	昭和61年度	同上	平成29年入学定員増(10人)
機械システム工学科	4	90	—	345	学士 (工学)	1.07	昭和61年度	同上	平成29年入学定員増(5人)
電気電子システム学科	4	70	—	280	学士 (工学)	1.07	昭和61年度	同上	
情報工学科	4	95	—	350	学士 (工学)	1.12	平成4年度	同上	平成29年入学定員増(10人)
知能機械工学科	4	55	—	220	学士 (工学)	1.04	平成17年度	同上	
生命医療工学科	4	60	—	240	学士 (工学)	0.95	平成19年度	同上	
建築学科	4	75	3年次 5	295	学士 (工学)	1.13	平成23年度	同上	平成29年入学定員増(5人)
総合情報学部									
情報科学科	4	100	—	340	学士 (総合情報学)	1.14	平成9年度	同上	平成29年入学定員増(20人)
社会情報学科	4	—	—	—	学士 (総合情報学)	—	平成9年度	同上	平成29年学生募集停止
生物地球学部									
生物地球学科	4	140	—	500	学士 (理学)	1.12	平成24年度	同上	平成26年入学定員増(20人) 平成29年入学定員増(20人)

大学の名称	岡山理科大学大学院							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年度	所在地
〈AC対象学部等〉	年	人	年次人	人		倍		
生物地球科学研究科 生物地球科学専攻 修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	0.70	平成28年度	岡山県岡山市北区理大町1番1号
理学研究科 応用数学専攻 修士課程	2	6	—	12	修士(理学)	1.16	昭和55年度	岡山県岡山市北区理大町1番1号
化学専攻 修士課程	2	16	—	32	修士(理学)	0.46	昭和49年度	同上
応用物理学専攻 修士課程	2	13	—	26	修士(理学)	0.38	昭和49年度	同上
総合理学専攻 修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	0.58	昭和63年度	同上
生物化学専攻 修士課程	2	13	—	26	修士(理学)	0.53	平成4年度	同上
臨床生命科学専攻 修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	1.20	平成20年度	同上
動物学専攻 修士課程	2	4	—	8	修士(理学)	0.50	平成24年度	同上
応用数学専攻 博士課程(後期)	3	4	—	12	博士(理学)	0.08	昭和62年度	同上
材質理学専攻 博士課程(後期)	3	9	—	27	博士(理学)	0.11	昭和53年度	同上
工学研究科 応用化学専攻 修士課程	2	13	—	26	修士(工学)	0.18	平成2年度	同上
機械システム工学専攻 修士課程	2	13	—	26	修士(工学)	0.61	平成2年度	同上
電子工学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士(工学)	0.43	平成2年度	同上
情報工学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士(工学)	0.35	平成8年度	同上
知能機械工学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士(工学)	0.81	平成21年度	同上

大学 の 名 称	岡山理科大学大学院								備 考
既設学部等の名称	修業年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 員	学位又 は 称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
生体医工学専攻 修士課程	2	6	—	12	修士 (工学)	0.58	平成23年度	岡山県岡山市北区理大町 1番1号	
建築学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士 (工学)	0.62	平成23年度	同上	
システム科学専攻 博士課程(後期)	3	5	—	15	博士 (工学)	0.46	平成2年度	同上	
総合情報研究科 情報科学専攻 修士課程	2	7	—	14	修士 (総合情報)	0.21	平成13年度	同上	
社会情報専攻 修士課程	2	6	—	12	修士 (総合情報)	0.74	平成13年度	同上	
数理・環境システム専攻 博士課程(後期)	3	2	—	6	博士 (学術)	0.33	平成15年度	同上	
大学 の 名 称	倉敷芸術科学大学								備 考
既設学部等の名称	修業年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 員	学位又 は 称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
《A C対象学部等》 危機管理学部 危機管理学科	4	90	—	90	学士 (危機管理)	0.74	平成29年度	岡山県倉敷市連島町西之 浦2640番地	
芸術学部 美術工芸学科	4	—	—	—	学士 (芸術)	—	平成20年度	岡山県倉敷市連島町西之 浦2640番地	平成26年度より学生募集停止
メディア映像学科	4	50	3年次 2	204	学士 (芸術)	0.95	平成16年度	同上	平成26年度入学定員増(15人)
デザイン芸術学科	4	50	—	220	学士 (芸術)	0.68	平成20年度	同上	平成26年度入学定員増(20人)
産業科学技術学部 観光学科	4	—	—	—	学士 (産業科学 技術)	—	平成20年度	同上	平成26年度より学生募集停止
経営情報学科	4	—	3年次 —	—	学士 (産業科学 技術)	—	平成23年度	同上	平成29年度より学生募集停止
生命科学部 生命科学科	4	50	—	200	学士 (生命科学)	0.93	平成16年度	同上	平成26年度入学定員増(5人)
健康科学科	4	—	—	—	学士 (健康科学)	0.84	平成16年度	同上	平成26年度入学定員増(30人)
健康科学専攻 鍼灸専攻	4	55	—	220	学士 (健康科学)	1.10	平成26年度	同上	
4	30	—	120	学士 (健康科学)	0.38	平成26年度	同上		
動物生命科学科	4	60	3年次 2	244	学士 (生命科学)	0.81	平成18年度	同上	平成26年度入学定員減(5人)
生命医科学科	4	50	—	200	学士 (生命科学)	1.12	平成20年度	同上	
健康医療学科	4	—	—	—	学士 (健康科学)	—	平成23年度	同上	

大学の名称	倉敷芸術科学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学員	編入学定員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍			
芸術研究科 美術専攻 修士課程	2	10	—	20	修士 (芸術)	0.30	平成11年度	岡山県倉敷市連島町西之浦2640番地	
芸術制作表現専攻 博士課程(後期)	3	4	—	12	博士 (芸術)	0.25	平成13年度	同上	
産業科学技術研究科 計算機科学専攻 修士課程	2	—	—	—	修士 (産業科学技術)	—	平成11年度	同上	平成29年度より募集停止
博士課程(後期)	3	—	—	—	博士 (工学)	—	平成13年度	同上	平成29年度より募集停止
機能物質化学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士 (産業科学技術)	0.31	平成11年度	同上	
博士課程(後期)	3	2	—	6	博士 (工学)	0.00	平成13年度	同上	
人間文化研究科 人間文化専攻 修士課程	2	15	—	30	修士 (学術)	0.19	平成11年度	同上	
大学院(通信制) 芸術研究科 美術専攻(通信制)	2	10	—	20	修士 (芸術)	0.05	平成14年度	同上	
産業科学技術研究科 機能物質化学専攻(通信制) 修士課程	2	20	—	40	修士 (産業科学技術)	0.00	平成14年度	同上	
人間文化研究科 人間文化研究科(通信制) 修士課程	2	30	—	60	修士 (学術)	0.04	平成14年度	同上	

大学の名称		千葉科学大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次人	人		倍			
《AC対象学部等》									
看護学部									
看護学科	4	80	—	320	学士 (看護学)	1.15	平成26年度	千葉県銚子市潮見町3番地	
薬学部									
薬学科	6	120	—	720	学士 (薬学)	1.00	平成16年度	同上	
薬科学科	4	—	—	—	学士 (薬科学)	—	平成18年度	同上	
生命薬科学科	4	40	—	160	学士 (生命薬科学)	0.35	平成22年度	同上	
危機管理学部									
危機管理システム学科	4	100	—	400	学士 (危機管理)	0.82	平成16年度	同上	
環境危機管理学科	4	40	—	160	学士 (危機管理)	0.43	平成24年度	同上	
医療危機管理学科	4	80	—	320	学士 (危機管理)	1.00	平成21年度	同上	
航空技術危機管理学科	4	40	—	160	学士 (危機管理)	0.24	平成22年度	同上	
動物危機管理学科	4	40	—	160	学士 (危機管理)	0.70	平成24年度	同上	
大学の名称	千葉科学大学大学院							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次人	人		倍			
薬学研究科									
薬学専攻									
博士課程	4	3	—	12	博士 (薬学)	0.24	平成24年度	千葉県銚子市潮見町3番地	
薬科学専攻									
修士課程	2	10	—	20	修士 (薬科学)	0.20	平成22年度	同上	
博士課程（後期）	3	5	—	15	博士 (薬科学)	0.13	平成22年度	同上	
危機管理学研究科									
危機管理学専攻									
修士課程	2	5	—	10	修士 (危機管理学)	1.50	平成20年度	同上	
博士課程（後期）	3	3	—	9	博士 (危機管理学)	0.11	平成22年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部/学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<経営学部 経営学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画				変更状況				備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月
専	教授	山口 隆久 (52)	平成29年4月	経営学基礎 企業論 経営戦略 ファイナンス戦略 金融サービス 基礎教養ゼミナール イノベーション・ラボⅠ イノベーション・ラボⅡ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ ボランティア活動A ボランティア活動B					
専	教授	黒田 正博 (47)	平成29年4月	データ解析基礎 経営科学 プログラミング基礎 応用プログラミング 基礎教養ゼミナール プロジェクト研究 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ					
専	教授	岡部 勝成 (55)	平成29年4月	簿記基礎 ファイナンシャルプランニング 簿記原理 財務諸表論 基礎教養ゼミナール イノベーション・ラボⅠ イノベーション・ラボⅡ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ					
専	教授	八木 一郎 (61)	平成29年4月	社会学基礎 現代のメディア ジャーナリズム論 基礎教養ゼミナール イノベーション・ラボⅠ イノベーション・ラボⅡ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ マスメディア論A マスメディア論B					
専	教授	志野 敏夫 (59)	平成29年4月	歴史学基礎 中国の歴史 歴史資料解析 基礎教養ゼミナール プロジェクト研究 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 岡山学A 岡山学B					歴史学基礎 中国の歴史 歴史資料解析 基礎教養ゼミナール プロジェクト研究 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 岡山学A 岡山学B フレッシュマンセミナー 日本の文化と歴史ⅡA 日本の文化と歴史ⅡB
専	教授	村松 潤一 (63)	平成29年4月	マーケティング戦略 サービス経営学 サービス社会システム 基礎教養ゼミナール イノベーション・ラボⅠ イノベーション・ラボⅡ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ					
専	教授	清野 聡 (50)	平成29年4月	商品開発論 ベンチャービジネス論 経営組織 人的資源管理 基礎教養ゼミナール イノベーション・ラボⅠ イノベーション・ラボⅡ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ					

設置時の計画					変更状況					備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名		
専	教授	鷺見 哲男 (59)	平成29年4月	まちづくりと商業 観光ビジネス 地域と伝統 基礎教養ゼミナール イノベーション・ラボⅠ イノベーション・ラボⅡ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ							
専	教授	森 裕一 (57)	平成29年4月	社会調査入門 行動計量学 データサイエンス演習 情報活用とビジネスライティングⅡ 基礎教養ゼミナール プロジェクト研究 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ							
専	教授	山形 真理子 (56)	平成29年4月	日本の歴史 東南アジアの歴史 アジアの考古学 比較文化論 基礎教養ゼミナール プロジェクト研究 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ					日本の歴史 東南アジアの歴史 アジアの考古学 比較文化論 基礎教養ゼミナール プロジェクト研究 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	平成29年4月から教職課程認定申請に係る理由により担当者の変更(29)	
					兼任	講師	高木 久史 (43)	平成29年4月	日本の歴史		平成29年4月から教職課程認定申請に係る理由により担当者の変更(29)
専	教授	徳澤 啓一 (48)	平成31年4月	イノベーション・ラボⅠ イノベーション・ラボⅡ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ							
専	准教授	大藪 亮 (46)	平成29年4月	商学基礎 マーケティング論 消費者行動 基礎教養ゼミナール イノベーション・ラボⅠ イノベーション・ラボⅡ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ							
専	准教授	三原 裕子 (39)	平成29年4月	経済学基礎 ミクロ経済学 マクロ経済学 基礎教養ゼミナール プロジェクト研究 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ							
専	准教授	水谷 直樹 (54)	平成29年4月	情報科学基礎 経営情報 経営システム 基礎教養ゼミナール イノベーション・ラボⅠ イノベーション・ラボⅡ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ							
専	准教授	川島 聡 (43)	平成29年4月	法学基礎 国際社会と法 社会福祉と法 基礎教養ゼミナール イノベーション・ラボⅠ イノベーション・ラボⅡ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ							

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	峯島 宏次 (40)	平成30年4月	心理学基礎 社会心理学 現代論理学 現代哲学 基礎教養ゼミナール プロジェクト研究 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ						
兼任	講師	峯島 宏次 (39)	平成29年4月	心理学基礎 基礎教養ゼミナール						
専	准教授	大田 靖 (45)	平成29年4月	情報リテラシー 社会調査法 データ解析システム 情報活用とビジネスライティングⅠ 基礎教養ゼミナール プロジェクト研究 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ						
専	准教授	松村 博行 (41)	平成29年4月	公共政策 経済政策 国際政治学 基礎教養ゼミナール イノベーション・ラボⅠ イノベーション・ラボⅡ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ						
専	講師	張 婧 (31)	平成29年4月	サービスマーケティング 小売マーケティング 国際マーケティング 基礎教養ゼミナール プロジェクト研究 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ						

<共通>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	石田 美佐江 (55)	平成29年4月	総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ 総合英語Ⅲ 総合英語Ⅳ 応用英語Ⅰ 応用英語Ⅱ 実用英語(TOEIC対応 クラス600) 海外語学研修A 海外語学研修B 海外語学研修C 海外語学研修D						
兼任	教授	杉山 正二 (55)	平成29年4月	総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ 総合英語Ⅲ 総合英語Ⅳ 応用英語Ⅰ 応用英語Ⅱ 海外語学研修A 海外語学研修B 海外語学研修C 海外語学研修D						
兼任	教授	高池 久隆 (63)	平成29年4月	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ 比較文化論A 比較文化論B 教養演習A 教養演習B						
兼任	教授	三木 恒治 (61)	平成29年4月	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ TOEICセミナーⅠ TOEICセミナーⅡ 文学A 文学B 海外文化研修 文章表現法基礎編A 文章表現法基礎編B 教養演習A 教養演習B					ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ TOEICセミナーⅠ TOEICセミナーⅡ 文学A 文学B 海外文化研修 文章表現法基礎編A 文章表現法基礎編B 教養演習A 教養演習B	平成29年4月からクラス編成の調整により担当科目を削除(29)
兼任	教授	森 嘉久 (51)	平成29年4月	フレッシュマンセミナー	兼任	教授	森 嘉久 (51)	平成29年4月	フレッシュマンセミナー	平成29年4月からフレッシュマンセミナー担当教員の変更に伴い担当教員を削除(29)
兼任	教授	三島 勝正 (65)	平成29年4月	心理学A 心理学B	兼任	講師	栗川 直子 (37)	平成29年4月	心理学A 心理学B	平成29年3月 三島教授の定年退職のため、平成29年度より担当者の変更(29)
兼任	教授	中島 聡 (69)	平成29年4月	論理学A 論理学B						
兼任	教授	眞砂 和典 (61)	平成30年4月	国際バカロレア概論						
兼任	教授	白石 純 (61)	平成29年4月	考古学A 考古学B						
兼任	教授	西村 次郎 (62)	平成29年4月	福祉環境論A 福祉環境論B 健康の科学 生涯スポーツ スポーツとフィールド科学 (エコツーリズムのための 野外スポーツ) スポーツとフィールド 科学(ヨット) スポーツとフィールド 科学(ゴルフ) スポーツとフィールド 科学(スキー) 学びの基礎論A 学びの基礎論B 地域フィールドスタ ディA 地域フィールドスタ ディB						

設置時の計画					変更状況					備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名		
兼任	教授	高原 周一 (51)	平成29年4月	ボランティア論A ボランティア論B 現代人の科学A 現代人の科学B 現代人の科学C 現代人の科学F 科学・工作ボランティア入門 科学ボランティア実践指導I 科学ボランティア実践指導II 科学ボランティア活動							
兼任	教授	西野 雅二 (67)	平成29年4月	日本の文化と歴史IA 日本の文化と歴史IB 日本の文化と歴史IIA 日本の文化と歴史IIB					日本の文化と歴史IA 日本の文化と歴史IB 日本の文化と歴史IIA 日本の文化と歴史IIB	平成29年4月からクラス編成の調整により担当科目を削除(29)	
兼任	教授	中村 修 (60)	平成29年4月	企業情報特論A 企業情報特論B 科学技術と人間A 科学技術と人間B							
兼任	教授	伊代野 淳 (53)	平成30年4月	インターンシップ概論 インターンシップA インターンシップB インターンシップC							
兼任	教授	波田 善夫 (69)	平成29年4月	身近な生物学I 身近な生物学II							
					兼任	教授	島田 英之 (50)	平成29年4月	現代人の科学D		平成29年4月から教育効果に配慮し担当教員追加(29)
兼任	教授	兵藤 博信 (62)	平成29年4月	現代人の科学E							
兼任	教授	加藤 賢一 (65)	平成29年4月	現代人の科学F 科学ボランティア活動					現代人の科学F 科学ボランティア活動	平成29年4月からクラス編成の調整により担当科目を削除(29)	
兼任	教授	滝澤 昇 (60)	平成29年4月	現代人の科学F 科学・工作ボランティア入門 科学ボランティア実践指導I 科学ボランティア実践指導II 科学ボランティア活動					現代人の科学F 科学・工作ボランティア入門 科学ボランティア実践指導I 科学ボランティア実践指導II 科学ボランティア活動 ワインプロジェクト実習I ワインプロジェクト実習II ワインプロジェクト実習III	平成29年4月から全学のプロジェクト科目追加のため担当科目を追加(29)	
兼任	教授	権本 泰雄 (62)	平成29年4月	現代人の科学F							
兼任	教授	山本 英二 (69)	平成29年4月	現代人の科学F	兼任	教授	山本 英二 (69)	平成29年4月	現代人の科学F		平成29年4月からクラス編成の調整により担当教員を削除(29)
兼任	教授	若村 國夫 (71)	平成29年4月	科学技術と人間A 科学技術と人間B							
兼任	教授	Kroumov Vareli (58)	平成29年4月	科学・工作ボランティア入門 科学ボランティア実践指導I 科学ボランティア実践指導II 科学ボランティア活動							

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	米田 稔 (55)	平成29年4月	科学・工作ボランティア入門 科学ボランティア実践指導Ⅰ 科学ボランティア実践指導Ⅱ 科学ボランティア活動						
兼任	教授	竹崎 誠 (49)	平成29年4月	科学ボランティア実践指導Ⅰ						
					兼任	教授	重松 利信 (53)	平成29年4月	科学・工作ボランティア入門	平成29年4月から教育効果に配慮し担当教員を追加(29)
兼任	教授	岡本 弥彦 (58)	平成30年4月	科学ボランティア活動						
兼任	教授	衣笠 哲也 (45)	平成30年4月	科学ボランティア活動						
兼任	准教授	David Richard Neill (58)	平成29年4月	発信英語Ⅰ 発信英語Ⅱ 発信英語Ⅲ 発信英語Ⅳ 実用英語(アカデミックライティング) 実用英語(プレゼンテーション) 海外語学研修A 海外語学研修B 海外語学研修C 海外語学研修D						
兼任	准教授	佐藤 元治 (47)	平成29年4月	日本国憲法 法学A 法学B 科学技術倫理A 科学技術倫理B						
兼任	准教授	森 博史 (63)	平成29年4月	福祉環境論A 福祉環境論B 健康の科学 生涯スポーツ スポーツとフィールド科学(ヨット) スポーツとフィールド科学(ゴルフ) スポーツとフィールド科学(テニス) スポーツとフィールド科学(スキー)					福祉環境論A 福祉環境論B 健康の科学 生涯スポーツ スポーツとフィールド科学(エコリズムのための野外スポーツ)	平成29年4月からクラス編成の調整により担当科目を削除(29) 平成29年4月から教育効果に配慮し担当科目追加(29)
					兼任	講師	土橋 恵美子 (45)	平成29年4月	福祉環境論A 福祉環境論B	平成29年4月よりクラス編成の調整により担当教員を変更(29)
兼任	准教授	松下 尚史 (52)	平成30年4月	地域フィールドスタディA 地域フィールドスタディB						
兼任	准教授	血田 琢司 (52)	平成31年4月	教職のための文章表現法 教職のためのプレゼンテーション						
兼任	准教授	坂根 弦太 (49)	平成29年4月	身近な化学Ⅰ 身近な化学Ⅱ 現代人の科学D						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	山口 一裕 (59)	平成29年4月	現代人の科学C 科学・工作ボランティア入門 科学ボランティア実践指導Ⅰ 科学ボランティア実践指導Ⅱ 科学ボランティア活動						
兼任	講師	猪口 雅彦 (55)	平成29年4月	ボランティア論A ボランティア論B 身近な生物学Ⅰ 身近な生物学Ⅱ 現代人の科学F 科学ボランティア実践指導Ⅰ 科学ボランティア活動						
兼任	講師	松尾 美香 (38)	平成29年4月	文章表現法基礎編A 文章表現法基礎編B プレゼンテーション基礎編A プレゼンテーション基礎編B 学びの基礎論A 学びの基礎論B 地域フィールドスタディA 地域フィールドスタディB						
兼任	講師	菅野 幸夫 (55)	平成30年4月	科学ボランティア活動						
兼任	助教	西川 憲一 (50)	平成29年4月	総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ 総合英語Ⅲ 総合英語Ⅳ 応用英語Ⅰ 応用英語Ⅱ 実用英語(アカデミックライティング) 実用英語(プレゼンテーション) 海外語学研修A 海外語学研修B 海外語学研修C 海外語学研修D					総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ 総合英語Ⅲ 総合英語Ⅳ 応用英語Ⅰ 応用英語Ⅱ 実用英語(アカデミックライティング) 実用英語(プレゼンテーション) 海外語学研修A 海外語学研修B 海外語学研修C 海外語学研修D	平成29年4月からクラス編成の調整により担当科目を削除(29)
兼任	助教	Jason Wickstrum (39)	平成29年4月	発信英語Ⅰ 発信英語Ⅱ 発信英語Ⅲ 発信英語Ⅳ						
兼任	助教	Jane O' Halloran (56)	平成29年4月	発信英語Ⅰ 発信英語Ⅱ 発信英語Ⅲ 発信英語Ⅳ	兼任	准教授	Jane O' Halloran (56)	平成29年4月	発信英語Ⅰ 発信英語Ⅱ 発信英語Ⅲ 発信英語Ⅳ	平成29年4月から専任教員として採用のため職名変更(29)
兼任	講師	辻野 義雄 (54)	平成30年4月	マーケティング・コミュニケーション マーケティング・リサーチ						
兼任	講師	栗原 理 (61)	平成30年4月	アジアの産業と市場 国際経済論						
兼任	講師	松尾 浩三 (62)	平成31年4月	リスクマネジメント						
兼任	講師	浦上 雅代 (45)	平成29年4月	情報リテラシー						
兼任	講師	八木 力俊 (46)	平成29年4月	コミュニケーション論 実践キャリア学Ⅰ 実践キャリア学Ⅱ						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	入江(中島)祥子(48)	平成29年4月	市民生活と法						
兼任	講師	山口 卓勇(41)	平成31年4月	環境政策						
兼任	講師	辻 貴志(43)	平成29年4月	世界地誌						
兼任	講師	神田 竜也(38)	平成29年4月	地理学						
兼任	講師	中村 真里絵(39)	平成30年4月	民俗学						
兼任	講師	梁 庭昌(30)	平成30年4月	ビジネス英会話Ⅰ ビジネス英会話Ⅱ 専門英語Ⅰ 専門英語Ⅱ						
兼任	講師	有木 恭子(69)	平成29年4月	総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ						
兼任	講師	下林 千賀子(64)	平成29年4月	総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ						
兼任	講師	鳥越 秀知(66)	平成29年4月	総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ						
兼任	講師	松浦 加寿子(41)	平成29年4月	総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ	兼任	講師	松浦-加寿子-(41)	平成29年4月	総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ	平成29年4月よりクラス編成の調整により担当教員を削除(29)
					兼任	講師	笠本 晃代(44)	平成29年4月	総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ	平成29年4月から教育効果に配慮し担当教員追加(29)
					兼任	講師	大野 浩恵(45)	平成29年4月	総合英語Ⅰ 総合英語Ⅱ	平成29年4月から教育効果に配慮し担当教員追加(29)
兼任	講師	赤羽(杉山)美鳥(54)	平成30年4月	総合英語Ⅲ 総合英語Ⅳ						
兼任	講師	鳥越 洋子(63)	平成30年4月	総合英語Ⅲ 総合英語Ⅳ						
兼任	講師	林 玉美(62)	平成30年4月	総合英語Ⅲ 総合英語Ⅳ						
兼任	講師	Gavin Thomas(46)	平成29年4月	発信英語Ⅰ 発信英語Ⅱ 発信英語Ⅲ 発信英語Ⅳ	兼任	助教	Gavin Thomas(46)	平成29年4月	発信英語Ⅰ 発信英語Ⅱ 発信英語Ⅲ 発信英語Ⅳ	平成29年4月から助教として採用のため職名変更(29)
					兼任	講師	バーデン 京子(53)	平成29年4月	発信英語Ⅰ 発信英語Ⅱ	平成29年4月から教育効果に配慮し担当教員追加(29)
兼任	講師	石井 成人(56)	平成29年4月	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ 文章表現法基礎編A 文章表現法基礎編B プレゼンテーション基礎編A プレゼンテーション基礎編B						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	西本 眞理子 (61)	平成29年4月	フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ						
兼任	講師	華 信来 (56)	平成29年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ						
兼任	講師	支 洪涛 (52)	平成29年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ						
兼任	講師	林(塩津) 侑静 (62)	平成29年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ						
					兼任	講師	浅野 純一 (58)	平成29年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 文学A 文学B	平成29年4月から教育効果に配慮し担当教員を追加(29)
					兼任	講師	王 安 (41)	平成29年4月	中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	平成29年4月から教育効果に配慮し担当教員を追加(29)
兼任	講師	林 正黙 (53)	平成29年4月	ハングルⅠ ハングルⅡ						
兼任	講師	河 智弘 (46)	平成29年4月	ハングルⅠ ハングルⅡ						
兼任	講師	柳 枝青 (56)	平成29年4月	ハングルⅠ ハングルⅡ						
兼任	講師	青井 由佳 (47)	平成29年4月	日本語 日本語理解						
兼任	講師	堂田 佐和子 (66)	平成29年4月	日本語会話 日本語表現						
兼任	講師	藤原 ゆう子 (47)	平成29年4月	日本語会話						
兼任	講師	佐藤 美穂 (55)	平成29年4月	基礎日本語 文章表現法基礎編A 文章表現法基礎編B						
兼任	講師	山口 信夫 (70)	平成29年4月	哲学A 哲学B						
兼任	講師	藤丸 智雄 (50)	平成29年4月	倫理と宗教A 倫理と宗教B						
兼任	講師	小阪 清行 (68)	平成29年4月	文学A 文学B 比較文化論A 比較文化論B	兼任	講師	小阪—清行— (68)	平成29年4月	文学A 文学B 比較文化論A 比較文化論B	平成29年4月から教員の体調不良により担当教員を削除(29)
					兼任	講師	杉林 周陽 (37)	平成29年4月	文学A 文学B 文章表現法基礎編A 文章表現法基礎編B	平成29年4月から教員の体調不良により担当教員を変更(29) 平成29年4月から教育効果に配慮し担当教員を追加(29)
兼任	講師	小林 博昭 (70)	平成29年4月	日本史A 日本史B						
兼任	講師	奥山 広規 (33)	平成29年4月	外国史A 外国史B						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	大橋 宗志 (65)	平成29年4月	マスメディア論A マスメディア論B	兼任	講師	大橋 宗志 (65)	平成29年4月	マスメディア論A マスメディア論B	平成29年4月よりクラス編成の調整により担当教員を削除(29)
兼任	講師	前田 浩 (59)	平成29年4月	政治学A 政治学B						
兼任	講師	砂川 和泉 (49)	平成29年4月	国際関係論A 国際関係論B						
兼任	講師	山下 賢二 (45)	平成29年4月	経済学A 経済学B						
兼任	講師	横尾 昌紀 (45)	平成29年4月	経済学A 経済学B						
兼任	講師	田口 豊郁 (63)	平成29年4月	環境と社会A 環境と社会B						
					兼任	講師	剣持 堅志 (64)	平成29年4月	環境と社会A 環境と社会B	平成29年4月から教育効果に配慮し担当教員を追加(29)
兼任	講師	塩見 佳也 (41)	平成29年4月	日本国憲法						
兼任	講師	中西 俊二 (69)	平成29年4月	日本国憲法 法学A 法学B						
兼任	講師	矢吹 香月 (56)	平成29年4月	日本国憲法 法学A 法学B						
兼任	講師	市場 恵子 (66)	平成29年4月	社会と人間A 社会と人間B						
兼任	講師	榎原 宥 (70)	平成29年4月	社会と人間A 社会と人間B 企業と人間A 企業と人間B						
兼任	講師	田邊 麻里子 (66)	平成29年4月	社会と人間A 社会と人間B 企業と人間A 企業と人間B 技術者の社会人基礎A 技術者の社会人基礎B						
兼任	講師	山口 立雄 (68)	平成29年4月	健康の科学 生涯スポーツ スポーツとフィールド 科学(スキー)						
兼任	講師	吉村 直樹 (70)	平成29年4月	健康の科学 生涯スポーツ スポーツとフィールド 科学(ボウリング) スポーツとフィールド 科学(スキー)						
兼任	講師	高野 洋志 (67)	平成29年4月	スポーツとフィールド 科学(エコツーリズム のための野外スポー ツ)						
兼任	講師	森 一治 (62)	平成29年4月	スポーツとフィールド 科学(エコツーリズム のための野外スポー ツ)						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	藤川 貴司 (41)	平成29年4月	スポーツとフィールド科学(ヨット)						
兼任	講師	杉本 博 (67)	平成29年4月	スポーツとフィールド科学(スキー)						
					兼任	講師	黒田 隆之 (61)	平成29年4月	スポーツとフィールド科学(スキー)	平成29年4月から教育効果に配慮し担当教員を追加(29)
兼任	講師	世良 利和 (60)	平成29年4月	ボランティア論A ボランティア論B 文章表現法基礎編A 文章表現法基礎編B プレゼンテーション基礎編A プレゼンテーション基礎編B 文章表現法応用編A 文章表現法応用編B プレゼンテーション応用編A プレゼンテーション応用編B	兼任	講師	世良 利和 (60)	平成29年4月	比較文化論A 比較文化論B ボランティア論A ボランティア論B 文章表現法基礎編A 文章表現法基礎編B プレゼンテーション基礎編A プレゼンテーション基礎編B 文章表現法応用編A 文章表現法応用編B プレゼンテーション応用編A プレゼンテーション応用編B	平成29年4月から担当教員の体調不良により担当科目を追加(29)
兼任	講師	生田 夏樹 (66)	平成29年4月	文章表現法基礎編A 文章表現法基礎編B						
兼任	講師	尾崎 美恵 (63)	平成29年4月	文章表現法基礎編A 文章表現法基礎編B						
兼任	講師	藤野 薫 (57)	平成29年4月	文章表現法基礎編A 文章表現法基礎編B						
					兼任	講師	崎重 敏幸 (72)	平成29年4月	文章表現法基礎編A 文章表現法基礎編B	平成29年4月から教育効果に配慮し担当教員を追加(29)
兼任	講師	飯田 哲司 (57)	平成29年4月	キャリア形成講座A キャリア形成講座B						
兼任	講師	桑田 朋美 (48)	平成29年4月	キャリア形成講座A キャリア形成講座B						
					兼任	教授	寺田 盛紀 (66)	平成29年4月	キャリア形成講座A キャリア形成講座B 技術者の社会人基礎A 技術者の社会人基礎B	平成29年4月から教育効果に配慮し担当教員を追加(29)
兼任	講師	西 敏明 (51)	平成30年4月	経営工学A 経営工学B						
兼任	講師	藤原 貴典 (57)	平成31年4月	技術マネジメントA 技術マネジメントB						
兼任	講師	中川 益生 (71)	平成29年4月	身近な物理学I 身近な物理学II						
兼任	講師	富永 敏弘 (71)	平成29年4月	身近な化学I 身近な化学II						
兼任	講師	森 義裕 (45)	平成29年4月	身近な化学I 身近な化学II						
兼任	講師	北岡 豪一 (73)	平成29年4月	身近な地学I 身近な地学II						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	武田 芳紀 (66)	平成29年4月	現代人の科学B 科学・工作ボランティア入門 科学ボランティア実践指導Ⅰ 科学ボランティア実践指導Ⅱ 科学ボランティア活動						
兼任	講師	森田 明義 (66)	平成29年4月	現代人の科学B 科学・工作ボランティア入門 科学ボランティア実践指導Ⅰ 科学ボランティア実践指導Ⅱ 科学ボランティア活動						
兼任	講師	吉村 功 (69)	平成29年4月	現代人の科学C 科学・工作ボランティア入門 科学ボランティア実践指導Ⅰ 科学ボランティア実践指導Ⅱ 科学ボランティア活動						
兼任	講師	大西 莊一 (70)	平成29年4月	現代人の科学D						
兼任	講師	花房 直志 (55)	平成29年4月	現代人の科学E						
兼任	講師	高見 寿 (67)	平成29年4月	現代人の科学F 科学・工作ボランティア入門 科学ボランティア実践指導Ⅱ 科学ボランティア活動					現代人の科学F 科学・工作ボランティア入門	平成29年4月から教育効果に配慮し担当科目を追加(29)
									科学ボランティア実践指導Ⅰ 科学ボランティア実践指導Ⅱ 科学ボランティア活動	
兼任	講師	津田 敏秀 (58)	平成29年4月	現代人の科学F	兼任	講師	津田—敏秀— (58)	平成29年4月	現代人の科学F	平成29年4月よりクラス編成の調整により担当教員を削除(29)
兼任	講師	糸山 嘉彦 (56)	平成29年4月	科学ボランティア実践指導Ⅰ 科学ボランティア活動					科学・工作ボランティア入門	平成29年4月から教育効果に配慮し担当科目を追加(29)
									科学ボランティア実践指導Ⅰ 科学ボランティア活動	
					兼任	教授	金子 明裕 (53)	平成29年4月	ワインの歴史と風土・文化 生命の基礎化学 発酵と微生物 ワインプロジェクト実習Ⅰ ワインプロジェクト実習Ⅱ ワインプロジェクト実習Ⅲ	平成29年4月から全学のプロジェクト科目追加のため担当教員追加(29)
					兼任	教授	石原 浩二 (49)	平成29年4月	ワインプロジェクト実習Ⅰ ワインプロジェクト実習Ⅱ ワインプロジェクト実習Ⅲ	平成29年4月から全学のプロジェクト科目追加のため担当教員追加(29)
					兼任	准教授	高橋 千秋 (47)	平成29年4月	ワインの科学 生命の化学概論 生命の基礎化学 ワイン醸造法 ワインプロジェクト実習Ⅰ ワインプロジェクト実習Ⅱ ワインプロジェクト実習Ⅲ	平成29年4月から全学のプロジェクト科目追加のため担当教員追加(29)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	講師	大福 貴史 (43)	平成29年4月	ブドウ栽培学 ワインプロジェクト実習Ⅰ ワインプロジェクト実習Ⅱ	平成29年4月から全学のプロジェクト科目追加のため担当教員追加(29)
					兼任	講師	片寄 広朗 (38)	平成29年4月	ブドウ栽培学 ワインプロジェクト実習Ⅰ ワインプロジェクト実習Ⅱ	平成29年4月から全学のプロジェクト科目追加のため担当教員追加(29)
							未定		IB教育課程論 IB教育方法論 IB教育評価論 DP教育実践研究Ⅰ	平成29年4月から全学のプロジェクト科目として追加したが平成30年度以降の開講科目であるため、平成29年度中に担当者を決定する(29)

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。

- ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
- ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」,「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**,当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」,変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
14 名	7 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
11	7	1	0	19	11	6	1	0	18	11	7	1	0	19
(11)	(6)	(1)	(0)	(18)						[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(B)）の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	1 名	1 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
		該当なし					
合計（A）					後任補充状況の集計（B）		
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	— 科目	必修	— 科目	必修	— 科目
		選択	— 科目	選択	— 科目	選択	— 科目
		自由	— 科目	自由	— 科目	自由	— 科目
		計	— 科目	計	— 科目	計	— 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし	必修				
			選択				
			自由				
			必修				
			選択				
			自由				
合計（C）					後任補充状況の集計（D）		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	— 科目	必修	— 科目	必修	— 科目
		選択	— 科目	選択	— 科目	選択	— 科目
		自由	— 科目	自由	— 科目	自由	— 科目
		計	— 科目	計	— 科目	計	— 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（A） + (C)		後任補充状況の集計（B） + (D)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	— 科目	必修	— 科目	必修	— 科目
		選択	— 科目	選択	— 科目	選択	— 科目
		自由	— 科目	自由	— 科目	自由	— 科目
		計	— 科目	計	— 科目	計	— 科目

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時 (28年7月)</p>	<p>倉敷芸術科学大学産業科学技術学部経営情報学科、千葉科学大学薬学部生命薬科学科、危機管理学部環境危機管理学科及び工学技術危機管理学科の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。</p>	<p>留意事項</p> <p>(倉敷芸術科学大学) 【産業科学技術学部経営情報学科】 学部・学科の教育理念や特色を分かりやすく伝えるため、独自のオープンキャンパスを実施し、オリジナルホームページを開設して、広く周知を図ってきた。また、高校現場等へ出向き、在学生の近況報告などを通して、高校との信頼関係の構築に努めてきたが、学部運営及び大学運営等も考慮した結果、今年度設置した危機管理学部危機管理学科へ改組することにより、平成29年4月より学生募集を停止した。</p> <p>(千葉科学大学) 【薬学部・生命薬科学科】 4年制の薬科学科系の定員充足状況は全国的に厳しい状況にある。千葉科学大学では、定員を充足するための対策として、学修内容や就職先、教育内容を周知するために広報活動に積極的に取り組んでいるが、本年度入試においても厳しい状況が続いている。(29)</p> <p>【危機管理学部・環境危機管理学科】 定員を充足するための対策として、平成29(2017)年度から教育・研究内容の充実を目指し、新たなコース設定を行った。また、学科、各研究室で行っている教育・研究内容が受験生に伝わるよう研究テーマ別のリーフレットの作成、これまでの卒業生の具体的な就職先、職種を提示すること等により、学生確保を目指す。(29)</p> <p>【危機管理学部・航空技術危機管理学科】 定員を充足するための対策として、進学者の多くが航空関連のコースを希望していることから、学科名称を航空関連の学科であることが明確に伝わるよう、平成29(2017)年度に「航空技術危機管理学科」へと名称変更を行った。また、パイロット養成を行う学部・学科を擁する大学の合同説明会である「エアラインパイロット養成大学合同説明会」に参加する等、広報活動も強化している。(29)</p>	<p>(倉敷芸術科学大学) 【産業科学技術学部経営情報学科】 産業科学技術学部の運営体制・教育体制を維持することにより、在学生に対する教育の質保証を継続する方針である。なお、在学生が全員卒業した時点で、学部等の廃止に係る届出書類を提出する予定にしている。</p> <p>(千葉科学大学) 【薬学部・生命薬科学科】 今後、教育研究内容の充実、受験生、保護者への情報提供の方法・内容等について当該学科のみならず、全学の入試広報委員会において積極的に検討し更なる改善を目指すと共に、平成30年度からの入学定員の変更も視野に入れ検討を行う。(29)</p> <p>【危機管理学部・環境危機管理学科】 今後も引き続き教育研究内容の充実、受験生、保護者への情報提供の方法・内容等について当該学科のみならず、全学の入試広報委員会において積極的に検討し更なる改善を目指す。(29)</p> <p>【危機管理学部・航空技術危機管理学科】 今後も引き続き教育研究内容の充実、受験生、保護者への情報提供の方法・内容等について当該学科のみならず、全学の入試広報委員会において積極的に検討し更なる改善を目指す。(29)</p>

- ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<経営学部 経営学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>本学部の教育課程は、各学科の専門分野に関する「専門教育科目」、語学教育に関する「外国語教育科目」、教養教育に関する科目「教養教育科目」により、体系的に編成している。</p> <p>基本計画書 附属施設の概要（名称：工作センター） （規模等）専有面積334.16㎡の教育研究施設に技術員2名、非常勤技術員の体制を整えている。主な利用状況として講義の他、卒業研究遂行のために試料作製、実験装置の製作・改良、および卒業研究生による試料など製作指導、さらに全学教員・大学院生の研究遂行のための依頼加工や装置製作の指導を行っている。</p> <p>基本計画書 既設大学の状況 岡山理科大学総合情報学部生物地球システム学科（平成24年より募集停止）、岡山理科大学大学院総合情報研究科生物地球システム専攻（平成28年より募集停止）</p>	<p>複眼的な思考力を養い創造性や革新性を伸長するため、全学で「プロジェクト科目」が設定された。経営学部においても「プロジェクト科目」を教育課程に加える。なお、「プロジェクト科目」には、「IB教員養成プロジェクト科目」及び「ワインプロジェクト科目」があり、「IB教員養成プロジェクト科目」、並びに「ワインプロジェクト科目」のうちの実習科目は履修登録単位数（上限49単位）に含めず、進級要件、卒業要件の単位数にも含めない。これに伴い授業科目の概要、学則において該当する科目を追加している。(29)</p> <p>基本計画書 附属施設の概要（名称：工作センター） （規模等）専有面積483.86㎡の教育研究施設に技術員2名、非常勤技術員の体制を整えている。主な利用状況として講義の他、卒業研究遂行のために試料作製、実験装置の製作・改良、および卒業研究生による試料など製作指導、さらに全学教員・大学院生の研究遂行のための依頼加工や装置製作の指導を行っている。 （旧 工作センターを取り壊し、A1号館地下1階に移設したための面積変更(29)</p> <p>基本計画書 既設大学の状況 岡山理科大学総合情報学部生物地球システム学科及び岡山理科大学大学院総合情報研究科生物地球システム専攻は、在学生がいなくなったため、平成29年4月30日をもって廃止とした。(29)</p>

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>本学では教員の教育能力を高める組織的・実践的取り組みとして平成12年度にFD委員会を設け、授業の改善を目的に教育システムの点検、授業内容（範囲及び水準）・方法の妥当性の検証等に全学的に取り組んできた。平成22年度には教育開発支援機構（平成28年度より教育支援機構）を設置して、FD推進室を中心に従来の取り組みの拡充を図り、学生による授業評価アンケート、教員間の授業参観、これらの有効性・妥当性の検証と啓発・周知を図るための講演会等の研修、各種報告書の作成と公開を行ってきた。</p> <p>平成28年度に全学的な教育研究組織の改変に伴い、FD推進室は、教育支援機構教育開発センターとして、発展的に改組するとともに、本学が直面する教育課題に対応し教育改革計画を立案し、集中的に審議するための学長直下の組織として、教育改革会議を設置した。さらに教育改革会議が発議し全学で決定した方針や改革計画を実行する役割を果たすとともに、各学科から改革案を全学に提案する役割も果たす教育ディベロッパーの制度も確立した。これにより、全学、学部・学科、個人という縦の繋がりによる責任の明確化と推進体制が構築され、同時に学部・学科と機構との横の連携による情報共有を図っている。FDに関しては、教育開発センターにおいて、組織的に推進し、教員の資質の維持、向上に努める計画である。教育開発センターにおけるFDの実施計画等を含め、教員の資質向上に関する取り組みに関しては、教育開発センター及び教育支援機構内での検討、審議を経たのち、全学的な教育研究に関する審議機関である第1学部運営委員会によって、具体的な審議を行っている。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>第1学部運営委員会は毎月1回開催し、教育改善について継続的に審議する。参加状況は委員全員が出席を原則とし、欠席の場合は代理出席を求める。</p>

c 委員会の審議事項等

第1学部運営委員会は、次の事項について審議する。

- (1) 学務及び教務に関すること
- (2) 学生生活に関すること
- (3) FDなどの教育に関すること
- (4) 研究体制に関すること
- (5) 図書館の運営に関すること
- (6) 情報処理センターの運営に関すること
- (7) その他の附属教育研究施設に関すること
- (8) 外国語教育科目、教養教育科目、教職関連科目、博物館学芸員関連科目等学部共通教育に関すること
- (9) 学部長等会議から審議付託されたこと
- (10) その他大学の教育及び研究に関して必要なこと

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 学生による授業アンケート
 - ・ 教員相互の授業参観
 - ・ FD講演会、FD・SD講演会

b 実施方法

- ・ 学生による授業アンケートに関しては③に後述する。
 - ・ 教員相互の授業参観はいくつかの学科内で行っているもの以外に、全学の教員が参観できる授業参観を毎年実施している。詳細はC項に挙げている。
 - ・ FD講演会、FD・SD講演会
講演会は講師による講演と質疑応答を行い各自が授業改善の取り組みに生かす。フォーラムは講演とワークショップがセットになったもので、ワークショップでは具体的に教授手法などを学ぶことができる。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 全学の教員が参観できる授業参観を実施する予定である。
- ・ 全学のFD講演会を実施する計画である。昨年度の実施状況は下記の通りである。

【平成28年度】

5月9日 岡山理科大学職員研修会

講師 西 憲明 ((株)KEIアドバンス)

演題 2017年度入試に向けて

参加者数 89名

6月29日 ハラスメント防止講演会

講師 北仲 千里 准教授 (広島大学 ハラスメント相談室)

演題 「大学でおこるハラスメント 事例をもとに考える」 グループワーク

参加者数 23名

6月30日 ハラスメント防止講演会

講師 山本 豊郎 (加計学園 社会保険労務士)

演題 「ハラスメントの加害者にならない為に！！」

参加者数 33名

10月6日 第2回FD・SD研修会

講師 千葉科学大学 入試広報室 青山 和明 氏 (元独立行政法人大学入試センター 事業次長)

演題 「高大接続システム改革会議 「最終報告」について」

参加者数 47名

11月4日 FD勉強会

演題 中教審3つのポリシーガイドライン研究会

参加者数 20名

11月8日 FD講演会

講師 大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部准教授 佐藤浩章

演題 「一貫性ある4ポリシーのチェックポイントと書き直し」

参加者数 82名

11月8日 第1回学科FD実務担当者会議

演題 学科ポリシー群の中教審ガイドラインへの対応

参加者数 44名

12月5日 LMS操作説明会

参加者数 30名

12月19日 第2回FD研究会 (シラバス入力説明会)

内容 1. 平成29年度シラバス作成要領、2. 平成29年度シラバス入力方法、3. 平成29年度シラバスチェック

2月22日 筋ジストロフィー講演会

講師 岡山大学病院 神経内科 医師 幡中 典子先生

参加者数 30名

3月10日 第7回FD報告会

参加者数 99名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・授業参観に関しては参観者が記入したレポートを、学内の教職員が閲覧可能なポータルサイトに掲載し、各授業参観に参加できなかった教員の参考資料になるようにしている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

すべての授業科目に対してWeb（ポータルサイト）によるアンケート調査を実施している。質問項目は、学生自身の学習の取り組み、授業内容の水準、方法、形態、施設・設備などに加え、自由記述欄も設けている。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケートの集計結果は、Web上で確認することができ、所属長の点検と同時に担当教員自身が学生による自由記述欄へのコメントに対する所見を、Webシラバス上に登録し、すべての学生が所見を閲覧できるようにしている。またWebシラバスの所見欄が拡充され、「受講者へのコメント」、「次回に向けての改善・変更予定」を加え、学生の意見に教員が応えることによって継続的な授業改善が行われるようにしている。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

経営学部経営学科では、社会に対する理解力と創造的な能力、問題発見・解決能力を涵養して、新たな経済的付加価値を生み出す創造性豊かなマネジメント能力を有する人材の養成を目指している。この目的を達成するために、サービスを中心とした現代社会におけるイノベーションを「経済的付加価値の創造」として位置づけ、4年間の学修の中で、専門分野の基礎科目を初年次に置いた上で、「マーケティングと戦略」、「データサイエンスと情報活用」、そして「制度と文化」の3つの専門領域を設け、基本的な知識や技能を修得させる。

さらに本大学で蓄積してきた「知」に加え、企業や自治体などが培ってきた実践的な「知」を積極的に取り込み、上記の目的に必要な科学的な講義と演習科目である「イノベーション・ラボ」など、創造的かつ現実的なアクティブ・ラーニング型カリキュラムを提供することで社会人基礎力やコミュニケーション能力を高めていくことを目指している。

(1) 基礎科目：

基礎Ⅰ類～Ⅲ類を、1年次春学期に開講し、3つの専門研究領域の基礎的概念を学ぶ。幅広い本学科の講義の体系と概要を理解させることを目指している。

(2) マーケティングと戦略：

企業等の組織体がいかに運営されているか理解し、効率的・効果的運営のための理論について学ぶとともにマネジメント能力の習得を目指す。

(3) データサイエンスと情報活用：

著しい進歩を遂げた情報ツールを活用したマネジメント手法を理解するとともに、データから知識を取り出すデータ分析能力および情報ツールを活用した問題解決能力の習得を目指す。

(4) 制度と文化：

社会と制度、歴史と文化から構成し、地域社会活性化のためのマネジメント能力の習得を目指す。国内外の地域が抱える諸問題を理解し、経済政策的、法的、政治的解決法を学ぶとともに、社会活性化のための情報共有・情報発信についてのマネジメントを習得する科目を配置する。

(5) 実践型ビジネス・プログラム：

社会人として必要となる諸能力を養うとともに、ビジネスにおける専門性を備えさせるための科目群である。

(6) 演習：

実践型演習科目であり、1年次から4年次を通じて少人数教育によるアクティブ・ラーニング形式で推進する科目群である。1年次、2年次では、社会人の基本として必要とされるコミュニケーション能力を養成するとともに、参加型・課題解決型授業を通してプレゼンテーション技術の習得を目指す。3年次は、企業や地域社会が抱える問題を解決する経験を通じて、講義で学んだ知識の実践活用能力の習得を目指して、4年次では、各自が専門分野を深めるとともに、自らの問題意識で物事を解明する能力を向上させ、社会人としての実践的能力の習得を目指す。

以上、(1)～(6)の科目群の設定によって、組織運営の様々な局面で発生する問題に対し多面的な視点から解決策を見出して実行できるマネジメント能力を養成する教育課程を編成している。

開設1年目である本年(平成29年度)は、募集人員130名に対し144名(定員充足率1.10倍)が入学した。4月のオリエンテーション及びゼミ活動等を通じ、学科の目標やコンセプトは学生に浸透しており、春1学期開講の基礎科目「経営学基礎」、「情報科学」、「経済学基礎」の受講者がいずれも100名以上(5月1日時点)の履修となっており、本学科のコンセプトに合う教育内容を相当程度訴求することができたと考えられる。入学者が定員を上回っているが、教室や演習室などは学生を収容するに十分な余裕があり、かつ基礎教養ゼミナールは複数クラスに分割開講することで、指導が行き渡るよう配慮しており、教育上支障はない。全教員が担当する「基礎教養ゼミナール」は、大学での学びにおいて必要となるディスカッション能力や情報発信力を高めることを目的に、1年次において少人数の演習科目として開講しており、教育効果を最大限に高められるよう努力している。

次年度以降も、パンフレットやホームページ、オープンキャンパス、高校生向けのイノベーション・ラボ等の手段・機会を積極的に活用し、学科のコンセプトを受験生に十分に伝え、学修意欲の高い入学生を迎えることで、教育・研究活動がさらに充実するよう努める方針である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成32年4月1日 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

平成32年度に評価機関（大学基準協会）の認証評価を受ける予定である。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（4）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

( ・ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(平成29年 7月31日)